



ところで、折角の展望をゆつくり楽しんでみたまえ。一番手前が藁毛で、左側に伸びている大山の尾根は鶴巻温泉の方へ裾をなびかせている。その中途に専売公社のタバコの工場がある。そうだ秦野盆地から渋沢丘陵帯はタバコの産地だ。一番窪んでいるのが秦野盆地だ。この盆地がいつできたかは知らないが、きつと丹沢の泥が雨や川に流されて積つたのだろう。これはあくまで素人の想像だが、現に地図では一〇〇米以上平塚の海岸よりも高い。この盆地をせきとめているのが、大山の尾根のひろがり、渋沢丘陵だ。その向うには、ほんのわずかな平地と平塚海岸がみえる。盆地も山も丘陵も平野も海も一目にみえるのだ。こんな風景は大陸にはないだろう。そんなことを想像すると、このヤビツの展望は、また格別に楽しくなる。そういえば相模平野だつて元は海だつたらしい。もう厚木の近くである海老名の国分寺をたずねたときに、舟をとめたという杭が残されていた。大そう古いものらしいが、丹沢山地と相模原という台地の間まで海であつたかも知れない。すると、相模平野は丹沢山や、その奥の道志の山やもつと奥の甲州の山々の土でできているということになるのだろう。やはり、この辺でも山の方が主人公らしいと確信できる。

ヤビツ峠の展望はそんな想像を楽しませてくれるほど、広くそして、すべての地形を一べんに見せてくれる。そして、附録に小気味よいダウンヒルを楽しませてくれる。

## 二

ヤビツ峠ほどの峠を狙わなければ、武蔵野の周辺も峠はたくさんある。いまではただの舗装された坂道である、南多摩丘陵の野猿峠も峠と名がついていれば、新道が出来て、東京近辺の最も好条件な舗装路となつた御殿峠も峠の名がついている。こいらは、滑り台のようなもので、ダウンヒルのために登るのも面白からう。けれどもわざわざいく手もない所だ。このほかに五日市から八王寺へ抜ける小峯峠も、五日市から登れば、よきダウンヒルコースになるだろう。まだまだ峠はたくさんある。一寸名を挙げて七国峠、大垂水、小沢峠、高麗峠、正丸峠、山伏峠、顔振峠、定峯峠等、まだまだある筈だ。これらの峠が武蔵野を限る山々の中にたくさん散在しているわけである。

こんなにたくさんある小さな峠のうちでも美しい峠はある。たとえば顔振峠などもその一つだと思ふ。

吾野から入つても越生から入つても、標高差はせいぜい五〇米余だから小さい峠には違いない。けれども勾配はかなりきつく、楽に登れたというサイクリストをまだ聞かない。越生側からなら、ようやく勾配がきつくなつてからの、崩れるような土質に悩まされるだろうし、吾野側からなら深い木立の中のわずかな土の湿りも勾配のきつさに加えて車を押す足をすべらすだろう。

う。だから、もう一度訪ねるなら、吾野に自転車を預けて一時間ばかり歩こうかと思つている。

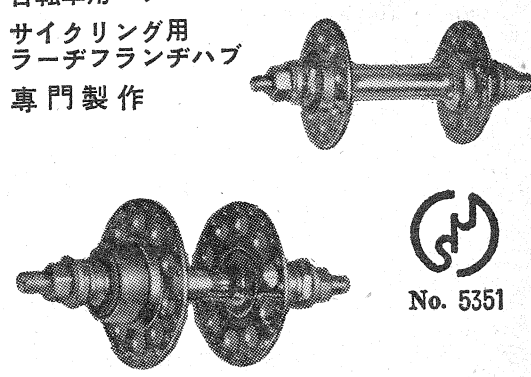
顔振峠は、晩秋にたずねた峠だ。案外に強い日射しを背中に浴びて吾野側の林を抜けて視界のひらけた峠にたつた。道の左側に一軒の家があつたが、人の気配がなかった。峠の北側には日光の山を望むことができた。あちこち眺めたが、やつぱり、風影(ぶかげ)の部落を眺める位置に腰を下すことにした。

風影の部落は手の届きそうなくところにある。白い漆喰の壁に秋の日ざしがしみるのは、一篇の詩に似てすがすがしかった。昔義経がこの峠を越えたとき、あまりの景色

# 富沢のハブ

实用新案・特殊製作

自転車用ハブ  
サイクリング用  
ラーヂフランチハブ  
専門製作



株式会社  
富沢製作所  
東京都板橋区本町17  
TEL 03 4184 (夜) 0260

のよさに何回も後をふりかえつたというのが、この峠の名の由来だと聞いたが、そうした頼りない云い伝えを大切に語りついできた人たちの、哀れなまでの小さな営みが、その風影の部落に見えるようだった。それにしても風影の部落がなければ、この峠は美しくないと思ふ。南側の眼をささげるのは武蔵野線終点の吾野駅に立ちほだかる山で、山肌はいつみても醜く崩されているのだ。

最近西武線の駅でパンフレットをもらつたら、黒山三滝と吾野を結ぶコースとして廻遊券の案内がでていた。はたして、いまでも六年前の風景がそこにあるだろうか？ そう考えてみると、少し不安になつてく

る。

## 三

富士のみえる峠というのがある。観光屋

い煙が無風状態の中で立ちのぼつていた。その背後は渋沢丘陵がたなわたり、右手には丹沢がせまつてい。そのむこうに、端正な山容をもつて富士が山々を押えてそび

めだつたが、渋沢の宿を五時たちして、藁毛から登つた。藁毛の急坂を何とか登ればあとはそんなに骨が折れないが、それでも休みたくなるのは三角山だ。私たちは草原

しれない。思いがけない峠で富士を見たことがあ。それは厳道峠だ。厳道峠というところにも、けわしい感じがするが、そんな感じを大して裏切らないほど道は悪かつ

でも六年前の風景がそこにあるだろうか？  
そう考えてみると、少し不安になってく

る。

三

富士のみえる峠というのがある。観光屋さんの喜びそうな峠だ。現に箱根の長尾峠などはその代表になっているし、北側では御坂峠などもその代表であろう。そんな観光屋さんの手垢に汚された所をたずねて、折角の風景を心なき酔っぱらいの罵声に損ねるより、案外小さな峠の方が心ゆくまで富士を觀賞できるだろう。有名なところは季節外れの方がよいと思う。

善波峠という小さな峠がある。大山の南で鶴巻の弘法山のすぐ北で、厚木から松田へ抜け、山北から御殿場、又は南下して小田原へ抜ける裏街道だ。頂上はトンネルになつてはいるが、秦野側は視界がひらけて富士の眺めは素晴らしい。

夕暮の富士をここで眺めたことがある。秦野盆地の一かたまりの山並は、ようやくく暮色につつまれて、夕餉の煙だろうか、細

い煙が無風状態の中で立ちのぼつていた。その背後は渋沢丘陵がたたなわり、右手には丹沢がせまつてゐる。そのむこうに、端正な山容をもつて富士が山々を押えてそびえていた。秋も十一月のことで富士は雪をいただいていたが、それだけに逆行の富士は暮れていく空を画して美しかった。

善波峠の富士は朝みれば、まぶしいほど光つて、富士そのものはきれいだが、全体の構図としては夕景の方が魅力的だと思ふ。考えようによつては破綻がなさすぎる構図で面白味に欠けるかも知れない。けれども誰も邪魔しないし、全体の雰囲気はなんともいえない。とくに夕景は人の生活がその風景に溶けあつて、旅情をかもしだすのだ。

朝の富士なら、私は三角山の富士をみたときのことを忘れない。三角山はヤビツ林道の南側で、ヤビツ峠よりずつと西に位置する頂上の平な草地である。十一月のはじ

めだつたが、渋沢の宿を五時だちして、蓑毛から登つた。蓑毛の急坂を何とか登ればあとはそんなに骨が折れないが、それでも休みたくなるのは三角山だ。私たちは草原に車を寝かせて、早朝の大休止をとつた。その時の富士の美しさには同行一〇余人の誰もが歎声を洩らした。雨が上つたばかりの朝だつたが、よく晴れたつた空は、まだ輝きを持つまえの時間であつた。富士山だけが新雪に朝日をまともに浴びて金色に輝いているのだ。ただ惜しいことには、頭に綿帽子のような雲を冠つていた。随分永い間見惚れていたら、オート三輪が上つてきた。そして車から降りて運転手も富士をみた。

「あの雲はとれないもんでしょつかね」と聞いたら  
「午前中はあのままでしよう」と答えた。彼のそんな言葉がなかつたら、文字どおりの大休止になつてしまつたかも知

れない。  
思いがけない峠で富士を見たことがある。それは巖道峠だ。巖道峠というところにも、けわしい感じがするが、そんな感じを大して裏切らないほど道は悪かつた。もともと山梨県で道志・秋山といえは僻村の筆頭だが、山に二分されたこれらの僻村を結ぶ峠であつてみれば、道のよからう筈はない。もちろん車は通行不能で、自転車といえども乗つては登れない。山田鉦雄さんが靴の裏にムガーを打つて大いにその有利さを現実に見せたところであるが、近辺の人でもあまり通らないらしく、道はかなり荒れていた。もし、「峠」という語感を大事にする人なら、自転車でも難行するかどうかはしばらくあずけても、こんな峠を残しておきたいと思うに違いない。

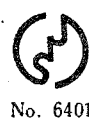
頂上に立つたのは夕方だつた。秋山側は展望がきかないが、道志側はよく見渡せた。道志の谷はV字型で深い。谷の底はも



賞 官 長 業 小 中 産 業 大 商 通  
賞 領 官 長 業 小 中 受

素晴らしい  
つの特許を持つ

# マルキンの自転車



No. 6401

新 快速車  
¥18,000

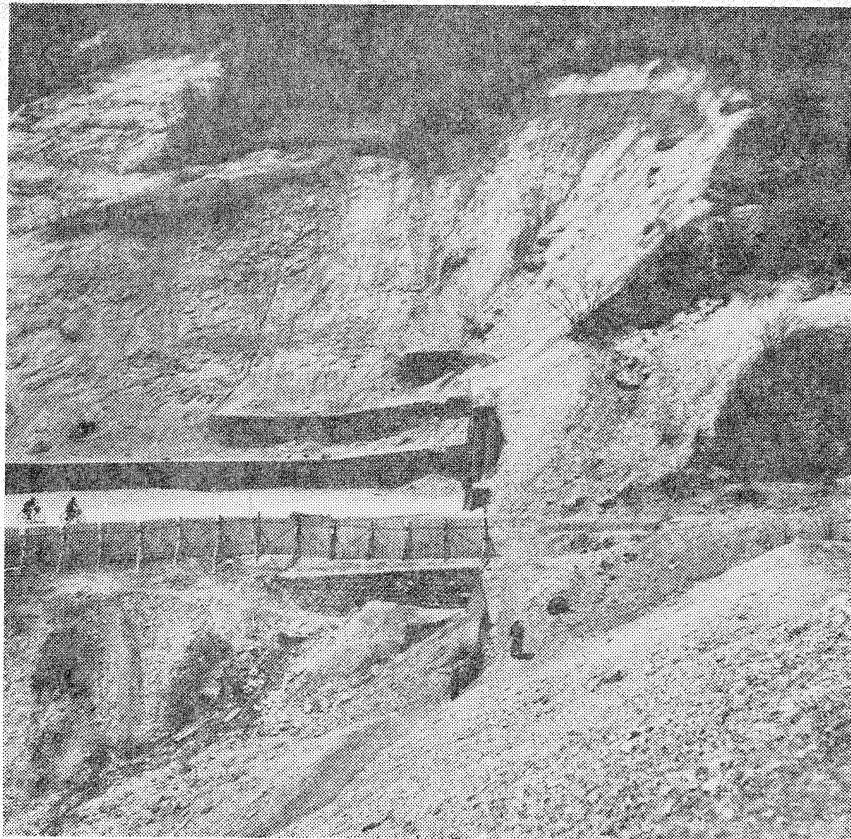
文化放送  
毎週日曜正午から  
“お笑いマルキン亭”  
フジテレビ  
毎週水曜午後10時15分から  
“スポーツの話題”

丸金自転車工業株式会社  
東京都豊島区池袋3の1418  
電話(97)4135~7(982)5191~2

う夕靄に包まれて、灯された電燈の玉つぶのような光も人恋しい気持をさせついでた。丹沢山塊の北を限る大室(おおむれ)加入道の二つの山は、頂きをその日の最後の余光に染めて、目の高さに連つていた。そして遠く、道志の谷を限る山なみが黒々とたたなわつていた。その上に

富士が逆行でそびえていた。六月だったので富士はそれでも動ずんでいた。この風景は予期しなかつただけに一行の人々は喜んだ。高橋信さんが、「こない所は始めてだ」と素朴な歎息をもらしていた。私はこういう構図の富士をみたことがなかつた。細長いV字谷の奥に富士がみえる。そんな表

和田峠



現を一人楽しんでいた。その夜、気のむくままに東京に帰る強行軍をやめて、道志温泉の日ノ出屋に泊つたが、主人の佐藤さんに話をしたら、この村でも巖道峠で富士をみる人は少ないといつていた。運がいいのださうだ。

#### 四

日ノ出屋の主人佐藤さんといえば、この人の話の中に出てくる峠は、この山峡の村人の悲しい思い出であつた。

それは私が秋山川の旅をしたときにも聞いた話だが、どこへ出るにも歩かねばならぬ時代がこの僻村に最近まであつた。「道志七里」という郷土史を読むとハイヤーが初めてこの谷に入ったのが昭和十二年、日華事変の始まつた年であつたと書いてある。そしてバスが入つたのはずっと後で、それも村人が経済的なつながりを求めていた上野原からではなく、自動車の通れる峠の道坂峠のむこう、谷村町から入つてきたのである。そんな村だから、今でも山梨四大僻村の筆頭になつてゐる。

この村もそうだが秋山村でも、昔は、貧しければ子供は奉公にでなければならなかつたが、峠を越えて上野原まで歩いていかねばならなかつたさうである。佐藤さんの少年の日の想い出の中にも、そういう一頁があつたというが、その話を聞いていると、この村の親が、子が、南北に越える峠で、どれほど涙ぐみ、また泣いたかを想像するのにかたくなくない。峠とは、その位置するところによつては、そうした村人の涙の

中に記憶されていくこともあるのだ。巖道峠も、そんな道の一つであつたかも知れない。

また粥新田峠も、そんな峠の一つだつたのかも知れない。そこは槻川村といつて埼玉県秩父郡の小さな山奥の村から、秩父の町へ越える峠である。巖道に近い峠で、いままら、定峯峠をバスで越えるのだろうか、ほとんど通る人もないかのような道であつた。紅葉が道一杯に敷かれていたが、峠の秩父側へ出てみると、展望こそよくないが、やはり一つの地方都市へ近づいたと思えるのであつた。谷のむこうの山が遠いからかも知れない。槻川村の側では向いの山は眼に近過ぎたが、こちらでは、はるかに遠く心なしか午後の日が、その間に濃んでいるような気がした。静かさを愛するならこういう峠を越えればよいという見本のようだ。

ところで、秩父の町は古くから産業活動をしてゐる町だ。田島の子の少いとなりの村の子供たちが道志の子のように、父親に手をひかれて、ここを越えなかつたと誰がいえよう。あまりにも静かな峠は、追想の中でもそんなことを考えさせる。汽車で奉公にでるのも峠を越えて奉公にでるのも、同じかも知れないが、后者の方にドラマチックなものを感じるのは、或は私だけの、峠の感傷なのであろうか。

#### 五

ドラマチックだといえ、国境の峠の方が一層上かも知れない。「入り鉄砲出女を

許さず」というきつい掟をにかけて、関所が眼を光らしている。内山峠も昔は、そんな

かさも違う。本宿まで一気に降りたが、ま

もあれば長尾峠の頂上にもある。そして正丸峠にもある。まだ柳沢峠にできたという話を聞かないが、もしできていなければ近

### 新機構

為わぬ  
快音なし  
付かない  
がります。



出張所 933-1535

で、とれほど涙ぐみ、また泣いたかを想像するのにかたくなくない。峠とは、その位置するところによつては、そうした村人の涙の

の感傷なのであろうか。五  
ドラマチックだといえ、国境の峠の方が一層上かも知れない。「入り鉄砲出女を

許さず」というきつい掟をかかかて、関所が眼を光らしている。内山峠も昔は、そんなおもかげをとどめていたかも知れない。上信をつなぐ裏街道として、昔はこの峠の下、白井に関所があつたことは「五街道細見」という本でみたが、裏街道だけに、人目を避けねばならぬ人々の通行も多かつたのかも知れない。とかく表通りはやかましく、中山道でさえ東海道に比べてはいくら

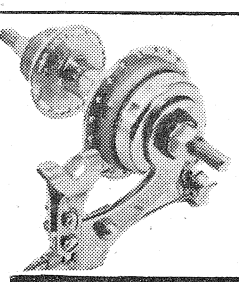
かさも違う。本宿まで一気に降りたが、ま

もあれば長尾峠の頂上にもある。そして正丸峠にもある。まだ柳沢峠にできたという話を聞かないが、もしできていなければ近いうちに出来るだろう。だが、そんな茶屋は商魂ばかりたくましく、気軽に茶など所望できない。まごまごすれば「よつてらつしやい」と引張りかねない。御坂峠の茶屋など一番いい方だと思ふぐらいいだ。

か楽だといふので、参観交替のような公儀の旅行をする人でも中山道という道を選んだそう。それは板橋の宿の通過を後になつて各藩ごとに指定されるようになったことでも推察がつく。まして内山峠という裏街道においておや。そんな想像をたくましくしてはみたものの、いまの内山峠は

そんな意味では六月一日に開通したという三国峠は、どうしても越えて見たい峠の一つである。折角予定したが天候が思わしくなくて、延期したが、一仕事終つたらゆつくり走つてみたいと思ふ。

この茶屋はおカミの方が勢力があるらしい。何事もテキパキしている。おやじの方はのんびりしている。婆さんはいなかつた。また鶏もいながつた。草鞋は吊下げてないが駄菓子はおいてあつた。だが鶏がないし、ガラスの蓋がしてあるから、鶏が糞をかける心配はない。私たちは困り裏にたに腰をかけ、自在鍵から鉄びんをはずし



### 全金属製の新機構

ぬわねを使用ライニングを使わぬ急制動でも不快音なし長い坂でも焼付かない磨耗の心配がない等の特徴があります。

## 平田のハズブレーキ

大阪府南河内郡美原町阿弥 平田鉄工所 東京出張所 933-1535

バスを通う大きな道になつてしまつた。上津牧場まで殆ど歩く必要がないようにバスを通すのが目的みたいだ。そんな観察を裏付けるように、信州側からのバスも、上州側からのバスも、内山峠の一寸北の、ガーデンハウス前で終点になつていた。こうなつてしまうと、空想は微塵に破壊される。

「おい」と声を掛けたが返事がない。軒下から奥を覗くと裸けた障子が立て切つてある。向う側は見えない。五六足の草鞋が淋しそうに庇から吊されて屈託気にふらり／＼と揺れる。下には駄菓子の箱が三つばかり並んで、そばに五厘銭と文久銭が散らばつてい

を待つ爺さんが一緒にお茶を飲んだが、彼は何にも食へなかつた。蜂蜜を買おうと思つて呼んだが返事はない。面白いから「おい」と呼んだが、返事がない。ガラス戸で距てた台所には活潑なおカミが洗物をして

でも、浅い谷の、そして奇岩の多い内山峠の風景と、浸蝕の進んだ上州側の深い谷との違いは、やはり内山峠を境としていたし、上州側に望む妙義の奇峰を眺め、荒船の偉大な絶壁をみると、上州に入ったのだという感じが深い。やはり国境の峠だ。

これは夏目漱石の「草枕」二の最初の一節であるが、峠のイメージとしてもつものいくつかの中に、いつも大きな比重を占めているのが、この一節の描写である。こういう茶屋のある峠を、いま探そうというが無理なのはわかっている。しかしなんとかが、これに近いところはないものかと、つねづね考える。

へ入つたまま出てこない。見知らぬサイクリストが四人も駄弁ついても店番をしな

す深くなる。路面の色も違えば風のあたた

茶屋のある峠はかなりある。観光バスの通るところなら大いにある。御坂の頂上に

いんだから呑気な話だ。三度目に呼んだら、おカミが出て来た。やつと蜂蜜を買

くれるのだと思つた。